

# CASBEE® 京都-新築

## 評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2018(v.1.0)  
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

### 1) 概要入力

#### ① 建物概要

■ 建物名称	京都市西京区総合庁舎新築工事	
■ 建設地・地域区分	京都市西京区上桂森下町	6地域
■ 地域・地区	近隣商業地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2023年9月	予定
■ 敷地面積	1354.20	m <sup>2</sup>
■ 建築面積	1055.03	m <sup>2</sup>
■ 延床面積	4,033.65	m <sup>2</sup>
■ 建物用途名	庁舎 事務所,	
■ 階数	地上5F、地下1F	
■ 構造	S造	
■ 平均居住人員	150	人(想定値)
■ 年間使用時間	2,500	時間/年(想定値)

#### ② 評価の実施

■ 評価の実施	2021年10月25日	実施設計段階
■ 作成者	東畑建築事務所	
■ 確認日		
■ 確認者		
■ LCGO2の計算	標準計算 → LCGO2算定条件シート(標準計算)を入力	

### 2) 個別用途入力

#### ① 用途別延床面積

事務所	4,033.65	m <sup>2</sup>	事務所	0.00	m <sup>2</sup>
			官公庁	4033.65	m <sup>2</sup>
学校	0.00	m <sup>2</sup>	幼稚園・保育園	0.00	m <sup>2</sup>
			小・中学校	0.00	m <sup>2</sup>
			小・中学校(北海道以外)	0.00	m <sup>2</sup>
			高校	0.00	m <sup>2</sup>
			大学・専門学校	0.00	m <sup>2</sup>
物販店	0.00	m <sup>2</sup>	デパート・スーパー	0.00	m <sup>2</sup>
			その他物販	0.00	m <sup>2</sup>
飲食店	0.00	m <sup>2</sup>			
集会所	0.00	m <sup>2</sup>	劇場・ホール	0.00	m <sup>2</sup>
			展示施設	0.00	m <sup>2</sup>
			スポーツ施設	0.00	m <sup>2</sup>
工場	0.00	m <sup>2</sup>	うち省エネ計画対象面積	0.00	m <sup>2</sup>
病院	0.00	m <sup>2</sup>			
ホテル	0.00	m <sup>2</sup>			
非住宅 小計	4,033.65	m <sup>2</sup>			
集合住宅	0.00	m <sup>2</sup>	専用部	0.00	m <sup>2</sup>
			共用部	0.00	m <sup>2</sup>

#### ② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	0
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	0
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市西京区総合庁舎新築工事	階数	地上5F、地下1F
建設地	京都市西京区上桂森下町	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年10月25日
敷地面積	1,354.20 m <sup>2</sup>	作成者	東畑建築事務所
建築面積	1,055.03 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	4,033.65 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★★

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

音環境	3.4
温熱環境	3.6
光・視環境	3.1
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性	3.4
耐用性	3.6
対応性	3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性	4.0

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	4.2
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.5
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 1. 安心・安全を守る防災拠点となる庁舎 2. 気軽に立ち寄り、区民の交流を育む庁舎 3. すべての人に優しく快適な庁舎		<b>その他</b> ・特になし
<b>Q1 室内環境</b> ・区民の親しみやすい総合庁舎とするため、北側エントランスに隣接した区民交流ロビーを設置し、気軽に立ち寄れるよう配慮する。 ・来庁者が目にする室内の壁面や床、天井の木質化をはじ	<b>Q2 サービス性能</b> ・ユニバーサルデザインに向けてサインの視認性や文字の大きさ、段差のない床、階段やトイレには手摺を設置するなど配慮する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・外構計画において、地域の生態系に悪影響を与える種類の植栽を非採用としつつ、竹や笹等京都らしい景観を形成する植栽を積極的に使用する。 ・3~5階にテラスを設け、内外が一体的利用できるよう
<b>LR1 エネルギー</b> ・太陽光発電、テラスの緑化、自然エネルギーを積極的に活用した計画とする。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・防汚性・耐久性に富んだ材料を選定し、京都市域産材を積極的に使用し、周辺環境から突出しない京都らしい外観と調和のとれた色彩とする。 ・省水型機器やLED照明の採用やリサイクル材の利用により、限られた資源を有効に活用した計画とする。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・雨水貯留槽を設け、雨水流失抑制に配慮した計画とする。 ・住宅に面する庁舎北側には木製外壁ルーバーおよびブラインドを設け、屋内照明の漏れに配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.6	A	★★★★★
建物名称	京都市西京区総合庁舎新築工事				
延床面積	4,033.65 m <sup>2</sup>				
用途	庁舎 事務所	使用CASBEE評価マニユ CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)			

<b>2 重点項目への取組度</b>	
キーワード	取組度
1 大切に使う	
2 とともに住まう	
3 自然からつくる	

### 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

<b>1 大切に使う</b>	合計点 32 /41
----------------	------------

<b>■長寿命化</b>		合計点 14 /20
<b>◇メンテナンスの容易性</b>		
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	◇物理的長寿命
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 3	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 3	<自由記述>
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 3	構造躯体の劣化対策等級において2等級相当を確保
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 3	◇社会的長寿命
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画
<自由記述>		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ
		待合と執務室を一体的な空間とし、フレキシブルな窓口・市民サービスフロアとする計
<b>■省資源</b>		合計点 17 /20
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 3	
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 5	
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 5	
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 4	
<自由記述>		
		本造部の躯体や木質化を図った内装には持続可能な森林から産出された地域産木材を使用。ビニル床シートやタイルカーペット等にはリサイクル材を使用。
<b>◆独自加算項目</b>		合計点 1 /1
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○

<b>2 とともに住まう</b>	合計点 34 /42
------------------	------------

<b>■自然とともに住まう</b>		合計点 11 /15	<b>■地域とともに住まう</b>		合計点 12 /15
<b>◇自然を感じられる計画</b>			<b>◇地域環境やコミュニティへの配慮</b>		
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 5	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3		
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3	LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 4		
<自由記述>				<自由記述>	
天井高さ2.6m以上を確保(敷地内およびテラスの緑化、区民交流ロビー内に吹抜を)		区民交流ロビー等区民が利用可能なスペースを設ける。			
<b>■歴史とともに住まう</b>				合計点 10 /10	
<b>◇歴史性への配慮</b>					
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 5				
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5				
<自由記述>					
サイン等に西京区産竹材を使用し、京都らしい、西京らしい内装を計画。					
<b>◆独自加算項目</b>				合計点 1 /2	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加算により、レベル5を超える。				
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。			○	

<b>3 自然からつくる</b>	合計点 38 /50
------------------	------------

<b>■自然材料の利用</b>		合計点 15 /15
<b>◇自然を感じられる計画</b>		
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 5	
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 5	
<自由記述>		
内装やサイン、区民交流ロビーの躯体に京都市産木材を使用。		
<b>■自然環境の利用</b>		合計点 19 /30
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア 1	LR1/ 2 自然エネルギー利用
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア 5	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア 4	スコア 3
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 3	
<自由記述>		
庁舎北側に木製外壁ルーバーを設置。庁舎の屋上に太陽光パネルを設置し、待合ロビー内で発電量等を「見える化」する。		
<b>◆独自加算項目</b>		合計点 4 /5
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシールド、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	○
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシールド、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	○
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m <sup>2</sup> ・年以上とされる場合。	○

<b>4 低炭素景観の創出に関する評価</b>				低炭素景観 取組数	3/6項目
<input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.1.3 屋光利用設備	<input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.2.1 屋光制御	<input type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出	<input checked="" type="checkbox"/> LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		
<input checked="" type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	<input type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善				

<b>5 ライフサイクルCO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>削減率</b>			
ライフサイクルCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> 参照値)	76.26 kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 削減率	+13.2%
CO <sub>2</sub> 削減量	87.83 kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>		
	-11.57 kg-CO <sub>2</sub> /年m <sup>2</sup>		

<b>6 ウッドマイルージCO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>削減率</b>			
ウッドマイルージCO <sub>2</sub>		ウッドマイルージCO <sub>2</sub> 削減率	0%
CO <sub>2</sub> 削減効果			

□ : 「ウッドマイルージ計算書」から転 □ : 自由記述入力欄

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
京都市西京区総合庁舎新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル									
機械室廻りは遮音壁とする。待合ロビーおよび執務室は雨側に設け通路から隔離。				4.0	0.40	-	-	3.4	
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.40	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音									
				3.0	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温				3.0	0.50	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.38	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25	-	-		
3.0 湿度制御				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御									
執務室エリアに床吹出空調を採用				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式									
				5.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用									
1 昼光率				2.6	0.30	-	-		
1 1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	5.0	0.40	-	-	
木製外壁ルーバーおよび庇を設置				4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策									
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	4.0	0.30	-	-	
ブラインド及び庇を設置				4.0	1.00	-	-		
3.3 照度									
				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御									
				3.0	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				4.0	0.50	-	-		
内装材はF☆☆☆☆の材料を全面的に採用				4.0	1.00	-	-		
4.2 換気									
1 換気量				3.0	0.30	-	-		
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視				4.0	0.20	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
全館禁煙とした建物構成				5.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>									
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性				3.0	0.40	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-		
3 パリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも C(独自加点)	4.0	0.30	-	-	
天井高さ2.6m以上を確保(敷地内およびテラスの緑化、区民交流ロビー内に吹抜を設置)				5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画				●自然 D(独自基準)	5.0	0.33	-	-	
内装の自然素材の使用・パースによる内装シミュレーション				3.5	0.30	-	-		
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-		
風除室の離隔距離確保、防汚性の高い内装材の使用、壁掛型の便器の採用				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
各階便所事にSKの設置				3.6	0.30	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				4.0	0.50	-	-		
建築基準法の1.25倍の耐震性を確保				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.4	0.30	-	-	
構造躯体の劣化対策等級において2等級相当を確保				4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-		
主要用途上位3種の2種にB以上を採用し、Eは不使用				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		

2.4	信頼性			節水器具、井水利用など	3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性				3.3	0.30	-	-	3.3
3.1	空間のゆとり				4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			1階においては4.2m、2階～5階においては3.8mの階高を確保	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=0.19(1階)、0.21(2階)	4.0	0.40	-	-	
3.2	荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3	設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.1
1	生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加点) D(独自基準)	建造物修景地区における行為の通知の届出済み (加点条件による加点)	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)	基本計画時および基本設計時にワークショップを開催	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー				-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> =0.8以下想定	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.80 以下想定	3.0	0.50	-	-	3.0
4	効率的運用				2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価				2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水			便所において自動水栓の設置および洗浄水量6Lの大便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				4.2	0.60	-	-	4.2
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	庁舎北側の木造部は持続可能な森林から算出された地域産木材を使用	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	ビニル床タイルおよびビニル床シート、床タイルにリサイクル資材を使用	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	木質化を図った内装部には持続可能な森林から産出された地域産木材を使用。	5.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	解体時に躯体と仕上げ材を容易に分別可能とする	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮			LCCO2換算率が一般的な建物に対して約85%	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制				3.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	木格子の使用による反射光の軽減	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる